

長野県食と農業農村振興審議会北信地区部会議事録

<日 時>

平成 29 年 9 月 28 日（木） 午後 4 時 30 分から午後 4 時まで

<場 所>

北信合同庁舎 講堂

<出席委員>

清水 絵美（長野県農業士協会下高井副支部長）
下田 安子（農村生活マイスター下高井支部）
湯本 英里（女将の会「ゆのか」湯本旅館女将）
望月 隆（中野市農業協同組合常務理事）【部会長】
佐藤 弘子（飯山市農業委員会委員）
武田 浩明（株式会社 長印 中野支社長）
小橋 善行（中野市農政課長）
出澤 俊明（飯山市農林課長）

<次 第>

- 1 開 会（北信地域振興局農政課長 雫田 幸和）
- 2 あいさつ（北信地域振興局長 高田 真由美）
- 3 会議事項（議長：地区部会長 望月 隆）
 - （1）次期長野県食と農業農村振興計画（素案）の概要について
 - （2）次期長野県食と農業農村振興計画 北信地域の発展方向（案）について
（上記(1)～(2)の説明 事務局：北信地域振興局農政課課長補佐兼農業振興係長 関根 邦夫）
 - （3）意見交換
- 4 その他（北信地域振興局農政課長 雫田 幸和）
- 5 閉 会（北信地域振興局農政課長 雫田 幸和）

<意見交換>

望月部会長

資料に基づいて、北信地域の発展方向と参考資料のそれぞれの説明をいただきましたが、次期長野県食と農業農村振興計画 北信地域の発展方向の案ということで、皆様のご意見をいただきたいと思います。

委員の皆様の得意とされている分野、またそれ以外でも、お気づきの点があればご意見を申し上げます。まずは下田委員、いかがでしょう。

下田委員

なかなか新規就農者が増えない中で、高齢になっても地域で農業に頑張っていらっしゃる方がたくさんいらっしゃいます。そういう高齢者のための支援も何かあってもいいのではないかと思います。生きがいを持つことは長寿にもつながりますし。

私も実は直売所、山ノ内町の道の駅にある観光客がたくさん立ち寄る直売所ですが、そこに農産物を出荷しています。そこへ出荷している高齢者の方は、腰が曲がっていたりする方もいますが、毎日せつせと農産物を運んで来ています。それがまた自分の生きがいになったりしているのです。

出荷者の中には、定年退職して果樹栽培を始めた方や野菜作りをやっていらっしゃる方も大勢います。直売所におかれる農産物の品目もいろいろ増えてきましたし、観光地ですのでもちろん観光客には買っていただくのですが、直売所がホテルや旅館とも何かつながっていけたら、山ノ内町の農業がもっと発展していけるのではないかと思います。

望月部会長

ありがとうございます。今、下田委員からお話をいただきましたが、定年帰農者ということでありまして、今回の資料の中で、参考資料の6 Pには言及されていますが、資料2（北信地域の発展方向）の1 Pの「担い手」の中にも考え方として入っているのでしょうか。Iターンを含めた就農者の中に、定年帰農者が含まれているのかなと感じたのですが。いかがでしょうか。

雫田農政課長

基本的には、資料2（北信地域の発展方向）のほうは要点的なところを出していく形になっておりまして、担い手の施策の展開方向の中には、定年帰農者とか高齢の方の支援や活躍といった表現はありません。

高齢の方や定年帰農者の支援をしていくという部分は、参考資料の6 Pのところの4番目に「定年帰農者や農ある暮らしを求める者に対する農業技術の習得を支援」という形で整理してありますけれど、考え方としては、資料2の1番目の多様な担い手の中でも入ってきます。

望月部会長

参考資料の1に「Iターン者等」というところがありますね。そこに含まれるということでもよろしいですね。ありがとうございました。

それでは順次伺います。湯本委員いかがでしょう。

湯本委員

順次ということなので、私もまとまっていませんが、全体的な意見となってしまうけれども、農業の後継者がいないということが実情だとは思いますが、私の従事している旅館業も後継者が減ってきておまして、うちの下の娘がどこかから聞いてきて、「これから衰退していく職業が旅館だよ、お母さん。」と言うのです。私はショックを受けましたが、旅館は長女が継いでくれるということで、継がせるためには私も頑張らなければならないと思っています。

下田委員もおっしゃいましたが、山ノ内・中野は農業と観光の町です。うちの旅館は本当に地産地消で、お客様にお料理を出させていただいております。山の麓の温泉に来てまで、お刺身の盛り合わせをくださいという方もいらっしゃいませんので、ほぼ100%、地元の食材を使った料理をお出ししております。うちのお客様は東京や関西がメインでございまして、帰られる時には「ご飯がすごくおいしい。」と言っただけです。「うちは全て県内産を使っています。」とお伝えすると、「本当に信州はいいところですね。」と言って帰っただけです。農業を始めとして畜産の方、お米を作っていらっしゃる方は、これからも胸を張って作っていただきたいと思っています。

山ノ内はスノーモンキーで有名になりまして、メインは冬ですが、夏場もたくさんの外国人の方に訪れていただいています。サルの話ですが、地獄谷のサルは人馴れして被害はないのですが、地獄谷に帰れない野生化したサルが町内で被害を出しておまして、子猿が観光客の方に手を出してしまうという話があります。そういう時は、ここ（北信地域の発展方向）にも書いてあるように、野生の鳥獣対策ということで、考えていただきたいと思っています。

望月部会長

ありがとうございました。

雫田農政課長

野生鳥獣についてはおっしゃるとおりです。資料2（北信地域の発展方向）の方では、2Pの重点取組4になりますが、施策の展開方向のところで、野生鳥獣対策の支援ということで整理してあります。また、参考資料の6Pには、主に農業サイドからの対策とか支援を整理してありますし、地域住民も参加する農村での多様な取り組み、コミュニティの中にも野生鳥獣対策を書かせていただきました。確かに観光客や対人という視点も必要になると思いますので、ご意見ということで伺っておきます。

望月部会長

ありがとうございました。続いて佐藤委員いかがでしょう。

佐藤委員

今の農業の実情を考えると、10年後と言わず5年後に、誰がやっているんだろうと思います。米は割合、うちの周りでも後継者がいたり法人が受け継いでいたりしますが、他は野菜とか、特に私がやっている畜産とかを見ると、一体誰が現状を維持していくんだろうと、いつも不安に思います。

そういう中で振興計画を立てていくのは本当に大変だろうと、こうして県の計画、地域の計画としていけているのは、すごいなと思わせていただきました。

いただいた資料について疑問に思ったところを申しますと、まず、参考資料の3番目「野菜・花き・畜産」のところですか。ここでは、伝統野菜にぼたんこしょうという名前が上がっていますが、ぼたんこしょうは地域でしっかり進めていっていただいているからこう書けるんだろうと思います。私の周りには常盤ごぼうがありますが、60代70代の方が、今までやってきたから、これを絶やしちゃいけないという気持ちでやっています。だから生産の安定と言われても、たぶん作っている人たちは、そういう意識をあまり持ってやっていないのではないかと思います。ですから、地域の消費者も含めて作っている人たちも、これは地域のブランドで、地域の伝統野菜を生産しているんだといった確固たる信念が備わるような勉強や意識づけがないと今後の振興は進まないと思います。また、作っている方は、伝統を守らなければいけないというよりも、自分の生活に必死なので、特別な売り方とか売り先といった方向性をしっかり定めてもらえないと、農業者としてやっていけないと思います。

次に高い収益性といいますが、自分で売ってこそ高く売れるのかもしれませんが、自分で売れる農業者はそう多くはないと思っていて、高く売れている農業者は、つながりをうまく生かしてやっているんだと思います。こういうものを作ったらどうかと言われてやっている農家は、規格に合わせるのがやっとなので、高い収益を約束されているわけでもないのに、長く続けていくのは大変なんだろうと思います。特に今年のように気候がおかしいときは、気候せいにして諦めてしまう。諦めてもいいような状況の人たちが作っていることが多いんです。自分はピーマンで稼ぐんだと、信念をもってやれば、気候のせいにはしてられないし、収益を確保しようと思えば、ちゃんと売ってくれと、相手先に要求したりしていきますが、諦めてしまうんだと思います。

次に消費者につながる北信の食の関係ですが、その中の施策の展開方向に、「農業者と2次・3次事業者による6次産業化」とありますが、このことを進めていける具体的な支援は出てくるのでしょうか。他もそうですが、支援をする支援をすると書いてありますが、具体的にどこまで支援がなされるのか。全体を通じてそう思いました。

次に、担い手の育成の関係ですが、参考資料の1P、「多様な雇用労力の安定的確保」の具体的な実行項目として「外国人労働者実習制度等の活用」とあるんですが、私たちの周りではきのこ経営で、中国の皆さんを受け入れてやっているようです。私は畜産なのですが、他県をみるとインドネシア等の皆さんを受け入れてやっています。それは県の事業としてやっていて、正直羨ましく思います。県の事業なので、数ヶ月に一度県で勉強会を開いて各農家の支援をしている。畜産の関係は

いろいろな組織で外国人の受け入れをやっていますが、その組織がしっかりやっているかどうかは私たちには見えてこない。県・行政が指導、受け入れをやっただけなら、そういう形で進めていくのもいいことだと思います。

最後に、バイオマスとか資源云々というんですが、畜産もバイオマスということで進めるよ、という話はあるのですが、実際に自分のうちでやっただけかどうかを考える時、いろいろな意味で前向きな検討できるように、指導してくださる立場の皆さんの指導力が欲しいと、常日頃思っています。

以上です。

望月部会長

ありがとうございました。いろいろご提言をいただきましたが、いかがでしょうか。

雫田農政課長

ありがとうございました。まず、伝統野菜の話がありましたが、確かにここに具体名で書かせていただいたのは、中野市豊田地域のぼたんこしょうです。ぼたんこしょう保存会と生産加工している皆さんが中心になって、種を保存して、栽培・加工・商品化して、一例では中野市内のセブンイレブンと協定して販売しています。ぼたんこしょう保存会の皆さんを中心とした活動に、市・地域振興局・普及センター等が協力しながら支援をしているところです。

このように地域の特色ある取り組みについては、生産グループなどを市町村・地域振興局・普及センター等と一緒に、具体的には情報発信とか商品化とかいうことについて支援していくということになるのかなと思っています。地域ブランドや伝統野菜といったものについては、「自分こうだ。」という生産者の想いが一番の柱になってくると思いますので、そういったところを含めて支援していきたいと思います。

また、経営を担っていくということの中で、マーケティングや販売については、おっしゃるとおりです。高い収益性を出していくということになってくると、相手からの信用を得て売っていく、相手にしっかり買ってもらうということが大切です。例え話で出てきたように、気候のせいにして諦めてしまうということではなく、きちんと経営としてやっただけかのように、生産者の皆さんに対して、JAや市場も支援をしていただいて、我々は生産者の皆さんの意識改革というか、そういった経営マインドになれるよう支援をしてきたいと思います。

それから、外国人実習生のお話がありました。県の事業でやっているところもあるというお話でしたが、受け入れ組織は民間の団体、場合によってはJAが窓口のところもありますが、いずれにせよ、一つはしっかりと受け入れ組織をどう作っていくかということです。今般、県とJAで、外国人実習生の受け入れの関係は特区申請をしておりますので、また方向性が出てくると思います。方向性がはっきりしてきたら、それを踏まえて対応していきたいと思っています。

最後にバイオマスの関係ですが、参考資料のほうでこの使用済み培地の関係は、書かせていただきました。今ご質問をいただいた畜産関係のバイオマスについては、北海道や他県では具体的に事業化とか実用化をしているところもありますので、そういった中で、畜産関係のバイオマス資源としての活用、バイオガス発電等ということであれば、また市と連携してご相談させていただきたいと思います。

望月部会長

ありがとうございました。佐藤委員よろしいでしょうか。

それでは、武田委員よろしく申し上げます。

武田委員

それでは、施策の重点取組について順番に一つずつお話しさせていただきます。

まず、1の担い手の育成の関係ですが、担い手の育成の方法の一つとして、担い手同士が連携をとっていけるような体制、若い担い手やプロフェッショナルな経営者とのコミュニケーションの機会をどんどん設けていただいて、生産者の中で横の関係を作ってもらうことが大切だと思います。その中でこれが儲かった、これはダメだったということを情報交換して学んでいただいて、横の連絡がとれるようにして、線と線が面になっていくようにしていただければと思います。

2の米・果樹・きのこ 市場競争力のある強い産地づくりの関係ですが、ご存じのとおり、長野県産、特にこの北信のきのこという商材に関しては、他県からは飛び抜けたものがあります。よく私たちはマーケットで県外の流通関係者と話をしますが、「中野市ならきのこやブドウがあるよね。」と言われる。やはり商品の厚みとか量の多さというのはマーケットの強みで、選ばれる産地になっていくと感じます。

最近感じているのが、もう少しラインナップの幅が欲しいということです。集中的な力があることはいいのですが、県の主力の品目としてやっていく中で、北信は、きのこぶどう、あるいはきのことりんごということになってしまって、「高原野菜はないの?」と言われることもあります。きのこ、ぶどうといった一点ものから、少しずつラインナップを広げていく中で、競争力というのは、量もあるけれども品目のバラエティさもあるということです。そうした支援もお願いしたいと思います。

GAPについてはオリンピックに向けて必要になりますが、あまりランニングコストをかける部分ではなくて、シンプルにやっていくべきかと思います。

3の野菜・花き・畜産の関係で、伝統野菜については、とりわけぼたんこしょうがありますが、掘り起こすともっと伝統野菜があるかもしれないので、伝統野菜のバージョンアップにつなげていただきたいと思います。

アスパラガスやシャクヤクについてですが、アスパラガスも本当に少なくなってきた、そこにズ

ッキーニがだんだん増えてきて、比較的量やニーズも安定してきました。こういう品種を少し開拓というか、広げていく方向もあるかと思います。

4の持続的な農業生産活動を支える基盤整備の関係ですが、私も田んぼを作っていますが、周りでは、U字溝に穴があいていて水が漏れてしまうだとか、田んぼの水はけが悪いだとかがありまして、改善するには、コストがかかるので田んぼをやめてしまう人もいて、荒廃地になっています。農地や水利施設の状態が良くて面積がまとまっていれば、借りてもらえることもあるので、あまりハードルを上げずに、使える農地を貸しやすいようにしていく施策を継続して欲しいと思います。

5の食の関係ですが、中野市農協さんのアルビスさんとの取組は素晴らしいと思います。アルビスさんは弊社とも取引があったのですが、アルビスさんが中野市農協さんの生産者・組合員になって生産物を買ってくれる。ユーザーが産地に入って農産物を持って行ってくれる。そうすると、ユーザーによるラインナップのチョイスの中で、長野県の農産物、北信の農産物が優先されて入っていくようになります。そうすると入っていく農産物は、ぶどうだったり伝統野菜だったり、いろいろなものに広がっていくと思います。ユーザーを決めて取引していくのは素晴らしいことで、これが新しい流通になっていくと思います。

東京の量販店のオーナーあたりからも、あの取組をやってくれるところは他にもあるのとか、あの取組は自分たちがやらなければいけなかったとか、反響がありました。こうした取引は力強い農産物・産地になっていく方法の一つだと感じました。量販店ユーザーが何を持っていくかということになると、中野市、北信にはいろいろなラインナップ商品・農産物がありますから、そこで安定的な取引ができ、安定的な収益が生まれます。

さらに県など関係機関団体のPRが加わって、量販店を中心としたフェアをとおして、「あの産地に行ってみない。」「その産地で地元農産物を食べてみない。」といった話が出てくれば、将来の食と農業、農業と観光のラインナップにもつながっていくと思います。

施策の展開方向の中には、拡大するとか改善するとか推進するとかいろいろありますが、とにかく課題は多いと思いますが、関係者と連携をとりながらより多くの行動するための予算をとって、いい内容を検討しながら一つ一つ実行できるようにしていただきたいと思います。

望月部会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。

雫田農政課長

ありがとうございました。まず、担い手の育成について、連携とか横のつながりとかの情報交換、まさしくおっしゃるとおりです。普及センターの活動の中で、地域の専業農家のトップ、いわゆる農業経営士の皆さんの集まりがあったり、40代の中堅どころである農業士の皆さんの会があったり、若手農家の皆さんや農村女性の皆さんの会があったりしますが、それぞれの会でお互いに勉強会や

情報交換をしたり、あるいは年代や会を超えて交流をしたり、そうした場を設けたりもしていますが、これからもしっかりやっていきたいと思っています。参考資料の文章に具体的には書き込んでいませんが、そういう視点は大事だと思っています。

競争力のある産地として、オンリーワン、ナンバーワンの品目のみならずもっと幅が欲しい。バラエティ化ということですが、多彩なもの、北信地域にしかないもの、特徴的なものも含め、特色ある多彩な農産物が生産できるような体制を作っていきたいということを、重点取組の3の中でまとめさせていただきました。具体的にはアスパラガス、最近ではズッキーニが増えてきていますが、その他果菜、また、露地栽培の花きは、夏場の多様な品目の産地ということで、そういうものがしっかりと生産できる体制をJAさんと作っていけたらということで書かせていただいています。商品を販売される皆様からすれば、ラインナップや商品の幅が欲しいということがありますので、ご意見として伺って取り組んでいきたいと思えます。

また、アスパラガスが少なくなっているということについて、普及センターの活動の中で、飯山・中野のアスパラガス産地をもう一度復活させようということで、現在、JA等関係者と相談しながら再構築に向けた対策を進めているところです。

食の関係の中で、アルビスさんの農福連携の農場の関係ですが、農場開設にあたっては、中野市のほうで指導的に取り組んでいただいておりますし、JA中野市のほうでは技術的な支援もいただいているところです。また、去年は飯山市のほうで、四国のスーパーふじスマイルさんの農福連携農場を開設しています。北信地域では、農福連携事業として産地との連携や障害者の方の雇用など、先進的な取り組みが行われています。

粕尾課長補佐

重点取組4の基盤整備の関係でございます。つい10年ほど前までは、水路は傷んできたら換えてしまえというところがありましたが、財政の悪化という中で、最近では使えるものは長持ちさせようというのが基本的な考え方です。私も農地整備、基盤整備の関係は、水を運ぶのが一番の使命と心得ております。修繕をしながら長持ちをさせながら使えるものは使い、かつ維持管理が少しでも楽になって、水を確実に運べるものという考えの中から、道路やトンネルなども含めて、維持管理の時代となっております。ここ5年間、悪いところは直しつつ、その施設は今後何年もつのかというような長期的なビジョンに立って、直したほうがいいのか、そっくり換えたほうがいいのか、最もコストをかけずに長寿命化していけるのはどういった点なのか、そういう保全計画により、長期的な視点に立って修繕・整備をしていきたいと思えます。

それから、担い手の条件の関係ですが、少し前まででしたら、蓋かけが欲しいとか道路が狭いかは、農家個々の小さな問題として捉えていた部分がありました。しかし、これだけ機械が大型化してきて、作業効率とか時間の節減といった形の中で、道が狭い狭くない、機械が入る入らないというところで、担い手への集約が進まないというようなことがネックになっている箇所もありま

す。そういうところで蓋をいくつかかけたりとか、道を少し広くしたりとか、細かいところもやっていくよう、国も方策を出してきています。そういったネックとなっているところを、小骨をとるような感じで、きめ細かくやっていきたいと思います。

武田委員

継続してやっていってください。

望月部会長

はい、よろしいでしょうかね。それでは小橋委員お願いします。

小橋委員

北信地域の発展方向ということで、農政全般、全てに関連しますが、今、中野市で課題になっていることをお話しします。

中野市の農業で課題だと考えて取り組んでいるのは、遊休荒廃地と野生鳥獣の対策です。

遊休荒廃農地の対策は、ここ（北信地域の発展方向）にもあるように多様な担い手に担っていただくことが大切です。中野市は、農業後継者としては、ぶどうなど有力品種があり、農業が儲かる傾向にあるので、順調に確保されていると思います。ただ、新規参入は数が少ないのが現状です。昨日、ちょうど新規就農で県外からいらっしゃった方とお話しする機会がありました。その方は、今アパートに暮らしながらほ場に通っていらっしゃるのですが、やはり家が見つからないのが悩みとのことでした。作業場を含めた農家住宅が空いたら、買いたいということですが、なかなかいいところが見つからないということです。新しく建ててしまえばいいのでは、と思ったのですが、実際、農業を始めて2年で所得が安定していないので、どこもお金を貸してくれないとのこと。新規参入をされる方には、農地も含めて住む家もバックアップしてかなければならないと思います。

第三者継承もありますが、田舎なので土地や建物に対する執着が強くて難しい部分があります。どなたかに今ある農地とか農業を継いでいただく、誰でもいいとはなりにくいとは思いますが、第三者継承、他の人に継いでいただくというようなことも、中野市でも考えておりますのでよろしくお願いします。

野生鳥獣対策について、困っているのは猟友会員の減少です。中野市も猟友会は30人くらいしかいませんが、年々高齢化と減少が進んでいます。反対に野生鳥獣は増えています。中野地域は広域の電気柵がありますが、旧豊田地域には広域の電気柵がないため、地域のゴルフ場によく出没していて、そこに何千万円もかけて電気柵をかけたなら、その周りの地区、豊田支所の近くの保育園に出るようになってしまいました。檻をかけて欲しいとかいろいろ言われるのですが、檻をかけて捕まえても自分達ではどうしようもないので、猟友会に始末してもらっています。本当に猟友会のご協力なくしてはやっていけません。

中野市のほうでも J A の青年部会等に狩猟免許の取得とかを勧めています。県の農業大学校とか北信農業道場とかで、農業に従事されている方に対して、狩猟免許の取得を働きかけていただければと思います。自分の農業、自分の家族を守るという意味で、積極的な取得を働きかけていただけたらと思います。

G A P については、中野市も農業法人に対してアンケートを取ってみましたが、やはりメリットがはっきりせず、取得も維持もかなりお金がかかるということで、JA のきこの部会では取得するようですが、なかなか個人や小さい法人では難しいのが現実だと思います。

最後に農福連携事業については、一昨年話しがありまして、是非中野市でもどうかということで、市も積極的に進めまして、JA の多大なご協力をいただきまして、今は遊休荒廃地の対策ということで大きな面積を使っただいて、非常に効果があったと思っています。

以上です。

望月部会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。

雫田農政課長

まず、新規就農、I ターンの皆さんの家が見つかりづらいこと、農地のこともあるかと思いますが、やはりそれが一番の課題だと思います。農家住宅がなかなか見つからない中で、里親、市町村、J A、農業委員、普及センターが連携する中で情報を共有し、対応していくということなのかなと思います。都会の生活とは違って、その地域の中でしっかりと認めてもらって、いろいろと情報ももらう中で進めていくことだと思います。

また、第三者継承の話がありましたが、制度としてそういうこともしっかり考えていく必要があると思います。国で第三者継承事業があり、積極的に進めていた時期もありましたが、小橋委員がおっしゃったように、条件的に難しいこともあって、あまり進んでいないのか、最近話を聞きません。

それから、狩猟免許の取得については、猟友会員の高齢化と人数減少の中で、狩猟免許をとっていただくために広く P R していく必要があると思います。普及センターでも北信農業道場や青年農業者の皆さんの会がありますので、会議の時などにしっかりと広報していきたいです。

G A P の関係でございますが、重点取組 2 にあります、きのこの関係は、信用・信頼の確保や実需のほうからの求めもあり、J G A P の方向へ進むと思います。一方、環境に優しい農業や G A P 等農産物の安全・安心な取組の強化ということの中では、J G A P や G G A P のようなレベルの高いものではなく、従来の G A P の取組について、特に露地作物などに対して緩やかに推進していくことだと思います。おっしゃるようにメリットがはっきりしないといった部分がありますが、安全・安心な農産物ということの中で進めていくことだと思います。

望月部会長

ありがとうございました。それでは、出澤委員お願いします。

出澤委員

資料2、北信地域の発展方向案にある農村・農村の特徴の中のグラフを見ますと、この青い部分、いわば中心的な経営体は全体の15%ですが、農地だと36%、生産額では85%なので、2.5倍ずつ増えています。そうした中で、めざす姿としてⅠ、Ⅱ、Ⅲとありまして、次代へつなぐ北信農業がⅠ、消費者とつながる北信の「食」がⅡ、人と人がつながる北信の農村がⅢとなっていますが、農業・食・農村、それぞれの関連性が疑問になっています。

まず、重点取組1 経営向上を目指す優れた担い手の育成で、達成指標の二番目に中核的経営体数が、現状1,161で、将来は増やすということだと思いますが、これを行うことでどうなるかが不安です。

次のページ、Ⅱの食の関係、消費者とつながる北信の「食」とありますが、例えば、達成指標の二番目に直売所の販売額とありますが、直売所へ行くとよくわかるんですが、生産者の名前が書いてある農産物がたくさんある。多くの生産者が朝採りして顔の見える販売をして、みんなが喜んで買って行くのですが、中核的経営体を増やすことで、小規模の生産者が少なくなる傾向になれば、そういうことは難しくなっていくのではないかと思います。農業法人とか大きな経営体は直売所にはあまり出さないですよ。私はそう思っています。

Ⅲに人と人がつながる北信農村とありますが、前回は私は話をしたんですが、農地を集積すると、今まで農業をやっていた人たちが、中核的な担い手に任せるので、農業者が減る傾向にあるんですね。そうすると農村の維持が非常に難しくなる。達成指標に多面的機能を発揮するための活動面積とありますが、集落で農業に関わる人が少なくなればなるほど、こういった活動は停滞すると私は思います。

こういったところのⅠ、Ⅱ、Ⅲの関連性はどのようなのでしょうか。そういう中で、重点取組1の経営向上を目指す優れた担い手の育成で、中核的経営体の育成はしなければいけないとは思いますが、もう少し小規模農業の育成だとか、少ない農産物で儲かるというか、たくさんものを作って生産性を向上して儲ける方法もありますが、少ない量で付加価値のあるものを作って儲けるとか、消費者の欲しいものを安心・安全で作って儲けるとか、そういったことを推進していかなければいけないのではないかと思います。百姓は、たくさん商売をしていたから百姓というらしいです。農業をやったり、大工さんをやったり、左官屋さんをやったり、いろいろな商売をやりながら農業をやっていた。地域に必要ないろんな仕事をやっていたということだと思います。農業は地域にとって必要な仕事だと思います。それを奪っていかないようにしたいと思います。もう少し小規模な農業の育成みたいなものを、消費者とのマッチングをしながら進めていく必要があるのではないかと。そうしないと、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの関連性が心配です。

冒頭で言った青いグラフが、2.5倍だったのが3倍になったりしていくと、農村の荒廃地面積の拡大だとかも問題になってくる。今でも中核的な経営体の皆さんが、これまでやってきた農地であっても、大きいトラクターが入らなくなってしまったからやめてしまうとかで、中核的な経営体に任せることで荒廃地が増えていく傾向にあります。そうした課題をしっかりとやってもらいたいと思います。

次代につなぐ北信農業というタイトルがⅠにあるけれど、これはⅠ、Ⅱ、Ⅲトータルで言えることだと思います。Ⅰは生産の関係が中心ですが、食も農村もしっかり確保できてこそ、次代につなぐ農業になるのではないかと思います。

以上です。

望月部会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。

雫田農政課長

ありがとうございます。目指す姿のⅠ、Ⅱ、Ⅲの関連性についてですが、個別、独立ではなくて、農業、食、農村のそれぞれがリンクをしていると思っています。

直売所に出して、顔の見える販売をしている農家の皆さんは、小規模農家や定年退職をした皆さん、あるいは高齢農家の皆さんが大半であるとのことですが、この部分については、やはり農産物直売所の供給力の強化という中で、多様な販売や取り組みがなされていると思います。

大規模法人に農地を任せていく中で、農業者が減ってしまうのではないか。そうすると多面的機能の維持活動が減るのではないか。農業農村の維持には、小規模農家の生産物に付加価値をつけて売るといった小規模農家への支援も必要ではないかといったお話しでありました。

大規模ではない、お米を数町歩作って、そこに特徴的な農産物、具体的には野菜や花といった集約的な品目を組み入れる中でしっかりと所得が上がるような考え方も入れながら計画を作ってきたところです。一方、大規模な法人、具体的には水田農業を中心とした法人には、地域のかんりのウェイトを占める水田を担っていただくといった考え方で整理をしているところです。資料2（北信地域の発展方向）で出澤委員にご指摘いただいた担い手、中核的経営体の育成については、そういった意識で書いています。参考資料の方には、小規模農家の育成につながる具体的な取組も盛り込んでありますが、より深めていきたいと思います。

望月部会長

ありがとうございました。一方的にそれぞれの委員さんに指名させていただきながら、ご意見をいただいてきましたが、最後に、是非申し上げておきたいというご意見があればどうぞ。

佐藤委員

畜産のことしかわからないのですが、中央畜産会の No. 1は国会議員、No. 2は農水省から天下ってきた人たちなんですよ。東京に行ってそういう偉い人たちと話をすると、有名な日本の大きな農場の名前をあげて、何々畜産はこれくらいの数字を出しているとか言われます。私たちはどんなに頑張ってもそんな数字は出せないんじゃないかなと思います。そんなとんでもない数字を出さなくても、この地域で畜産を営んで暮らしてはいけるんじゃないかなと思うんです。農業の方向性が、大規模化・集約化とかで、小さな農業はそこに巻き込まれてしまう。地域ってそういうものじゃなくて、小さい人たちがみんな寄り集まって楽しい生き方をしていけばいいんじゃないかと、東京に行くとそんな思いをして帰ってきます。

望月部会長

ありがとうございました。実際に生産されている中でのご意見でしたが、よろしく願いいたします。他にはよろしいでしょうか。

それでは、座長をさせていただいておりますけれども、私も委員ということで、農協という立場で、気づいたことを申し上げます。佐藤委員からも出ましたように、農業というのは夢が追える産業だと常々思っています。経済至上主義だけでなく、本当の自分の夢や思いを追っていける産業です。一方でよく思うのは、どうしても経営が安定しづらいということです。「気候的な要因やそれに伴う需要の変化が甚だしくて、夢を追えるいい産業だけれど、どうしても経営が不安定だ。」と組合員さんから言われる。そういうところに私たちJAはどのようにかかわっていくのか、いつも悩むところなのですが、今日ご意見を伺う中で、同じことを非常に感じました。

それから、湯本委員のおっしゃった、「観光から見たときに北信の農業は自信をもっていただいていい、東京・大阪のお客様に自信を持って提案して、喜んでいただいています。」という言葉をお聞きして、非常に嬉しかった。先ほど申し上げたように、うちの若い衆は夢を追い求めていますから、そういったことをつなげていくのも私どもの仕事だと思いました。

それから、武田委員から「横のつながりといった部分が、若干弱いんじゃないか。」というご指摘をいただきましたが、中野の中で見ますと、昨年始まりました「おごっそフェア」というのがありまして、昨年は準備期間が短かったこともあって、農協の関わりはまだまだ弱かったのですが、農協の青年部や商工会の若い人たちが自ら寄り集まって、つながりを持ちながら中野の食を発信しようとしている。そういう芽が生まれつつある。そういう芽を行政の提案の中に乗せていただきながら、私どもとしても更に進めさせていただければと思っています。

座長を務めさせていただきましたが、農協の立場として感じましたので、よろしく願いいたします。時間の関係もありまして、全体を通じてなかなか十分にご意見をいただくことができなかつたかと思いますが、よろしいでしょうか。

はい、それでは本日の議事については以上で終了とさせていただきます。皆様方にはご熱心にご

審議いただき、ありがとうございました。また、事務局におかれましては、委員のご意見・ご助言を北信地域の発展方向の策定やその推進に、十分反映されることをお願い申し上げまして、進行を事務局にお渡ししたいと思います。どうもありがとうございました。

農政課長

ありがとうございました。議事進行をいただいた望月部会長をはじめ、委員の皆様方には、「北信地域の発展方向について」ご熱心にご審議いただき、誠にありがとうございました。本日いただきましたご意見を反映できるところは反映し、北信地域の発展方向を県へ提出していきたいと思います。